

郡山・城下町の今昔

55期生

I テーマ設定の理由

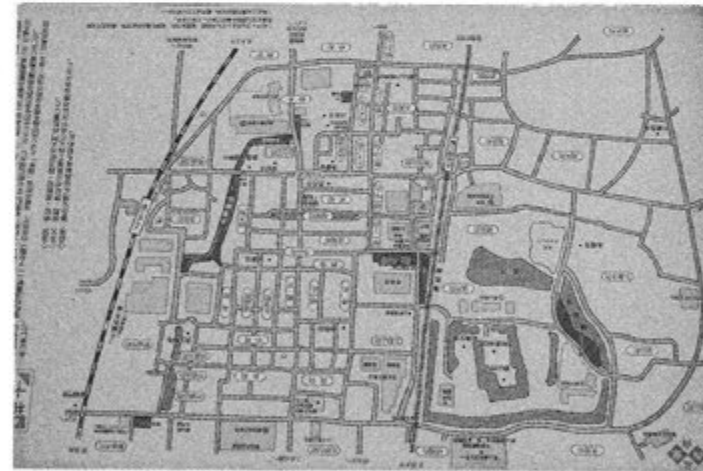
私の住んでいる郡山は、かの有名な豊臣秀吉の弟、豊臣秀長が治めたこともある城下町だ。町の形もよく残っているし、他にも昔の城下町を偲ばせるものがある。例えば、紺屋町・大工町・豆腐町・材木町・綿町・茶町などの町名や、くねくねと曲がりくねった道などである。そんな環境なので、小学校で「お城」について調べ学習をしたりして郡山の歴史には興味を持っていた。

今回は、城下町の今と昔を比較してみることにした。

II 研究方法

- ・図書館等で郡山に関する文献を探す
- ・城周辺を実際にまわる
- ・昔の地図と現在の状況を比較する

III 研究内容



現在の地図

1. 町名

(1) 箱本十三町

郡山では他の城下町のように惣年寄制を設けず、秀長の地子免除の朱印状を箱に納めて、各町が1カ月ごとに持ち回ることになっており、朱印状を預かった町の年寄が「箱本」の名で全町の支配に当たった。後世、町数が増加しても「箱本十三町」の名は残った。

本町・今井町・奈良町・蘭町・柳町・堺町・茶町・豆腐町・魚塩町・材木町・
雑穀町・綿町・紺屋町の13町

(2) 内町

箱本十三町と近世中期までに成立した枝町を総称して内町といい、地租免除の町方だった。

枝町は、鍛冶町・車町・矢田町・中町・新紺屋町・新町・川中町・西奈良口町・北大工町・洞泉寺町である。

(3) 現在との比較

魚塩町→魚町・塩町の2町に分かれている

鍛冶町→北鍛冶町・中鍛冶町・南鍛冶町の3町に分かれている

矢田町→矢田町通

中町

新町 → 新中町

川中町 → なくなった

2. 外堀



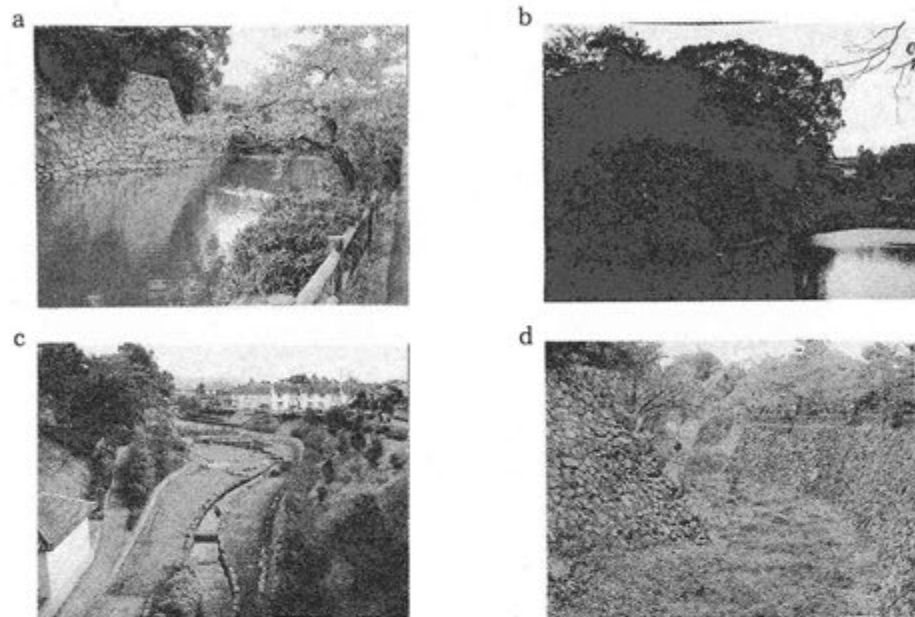
9枚とも「外堀」の写真

現在の外堀の状態は5つに分けられる。

- ・①、②のように復元され、整備されて公園になっている所
- ・③、⑤のように外堀とは分からないが水路として利用されている所
- ・④、⑧のように地面の下にある所
- ・⑥のように何となく形は残っているが、草がしげり、荒れている所
- ・⑦、⑨のように溜池として利用されている所

- ・①、②の写真は、「外堀緑地」として復元された公園
- ・③の写真は、外堀緑地からほんの少し行った所。形は残っていて、水も流れているが、外堀跡としては知られていない。
- ・④の写真は、住宅街の道。この下を外堀跡が通っているだろうと考えられる。
- ・⑤の写真も③のように形は残っていて、水が流れているが、外堀跡とは知られていない。この水は、ポンプで汲み上げて田んぼへ入れていた。
- ・⑥の写真は、草がしげってよく分からないが、そこだけ細長くずっと続いていて、くぼんでいることから外堀跡と考えられる。
- ・⑦の写真は鴨ヶ池で、溜池として利用されている。
- ・⑧の写真は②と同様、駐車場の下が外堀跡だと考えられる。
- ・⑨の写真は尼ヶ池で、⑦と同様、溜池として利用されている。後方にある中学校に通う友人は、この池が外堀の一部だということを知らなかった。

3. 内堀



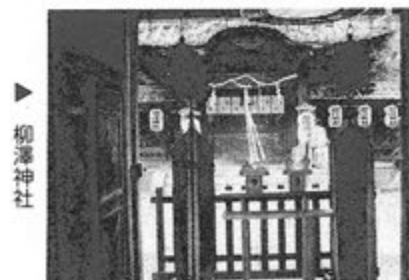
現在の内堀の状態は3つに分けられる。

- a、bのように昔のまま残っている所
- cのように整備されて公園になっている所
- dのように埋め立てられた所

- a、bの写真は水もあって昔のまま残っている。
- cの写真は、内堀跡の中にある公園。
- dの写真は、埋め立てられた場所。これは、戦争中に埋め立てられたものだ。戦争中は、堀が埋め立てられても畑になったり、家で使う燃料が足りなくなったために城の桜の木を切って薪にしたそうだ。(郡山城は桜の名所で、桜の咲く時期に「お城祭り」が行われる)最近まで、畑だった所もあるが、今はない。

4. 城下町を偲ばせる場所

(1) 柳澤神社、柳澤文庫



柳澤神社

城内町本丸跡にあり、祭神は柳澤吉保(元藩主)旧藩士等の手で明治に創立された。拝殿入口の扁額「柳澤神社」は有栖川宮熾仁親王の筆。

柳澤神社(郡山城史跡・柳澤文庫保存会)

柳澤家からの数万坪の土地。歴大な旧郡山藩資料の寄付行為によって昭和に設立された。

(2) 郡山八幡神社(地図中A)

郡山城鎮護の八幡宮として歴代城主の尊崇を得て今日に至る。



(3) 大納言塚(地図中B)

箕山町にある豊臣秀長の墓所市指定文化財(史跡)



(4) 紺屋川(地図中C)



紺屋町にある。

道路の真ん中を流れていて、昔、染め物をするのに使った川。今は、鯉や金魚が泳いでいる。(郡山は金魚でも有名)

道の真ん中にある為、自転車に乗っていて落ちてしまう人も結構いるらしい。

この川は、佐保川に注ぎ、佐保川は大和川と合流する。

IV 結 論

1. 町

建物はあまり残っておらず、職業別に住み分けていた名残もほとんどなく、住宅地・商店街になっている。

しかし、紺屋町には紺屋川があるし、洞泉寺町は今も寺が多い。それに町の形や道もほとんど変わっていない。

つまり、風景は変わったが、他は変わっていないということだ。

2. 城

(1) 外堀-外堀緑地はしっかり整備されているが、それ以外の所は、堀自体がなかったり、あっても堀と分からない、知られていない状態である。

一部が溜池として利用されていることから、外堀を作るときに、地形を上手く使い、無理に造成しなかったということが予想できた。

(2) 内堀-大体は元の状態だが、戦争中の食糧難で畑にする為に埋め立てられた所もある。

(3) 城内-城内には高校が2つと柳澤神社、柳澤文庫がある。公園ができたりして、大分変わっただろう。

V 今後の課題

• 明治~昭和も比較したらどうなるだろうか。

・もっと町の様子を詳しく調べたらどのような違いが出るか。

VI 感想

「えっ、外堀って結構残ってるんだ」と私は驚いた。一部しかないと思っていた外堀が、たどっていくとぐるりと一周できたのだ。数人の友人に言ったら、やはり驚いていた。「お城」は知っていても、その堀のことは知らなかった。他にも、今回の研究で初めて知るものがあった。

なかなかしんどかったりもしたが、それによって「平和のシンボル金魚が泳ぐ城下町」に更に愛着を持てることを嬉しく思う。

VII 参考文献

- ・郡山史
- ・ふるさと大和郡山事典 大和郡山市
- ・わたしたちの大和郡山市 秋本悟

①～③は外堀の写真の番号
A～Cは「城下町を偲ばせる場所」

▼江戸時代郡山城下復原図

